

彦根市道路網基本方針

序. 基本方針の策定にあたって

- 本市では、「彦根市道路整備プログラム」に基づき道路整備を推進する一方、長期未着手路線のある都市計画道路の見直しに着手。
- まちづくりでは、環境重視社会、都市防災への対応、彦根城旧城下町地域での歴史的建造物やまちなみ保存・活用などを推進。
- こうした背景から、本市の将来都市像を見据えた今後の道路整備の基本的な考え方を示す「彦根市道路網基本方針」を策定。

1. 道路整備を取り巻く環境変化

○これまでの道路整備

- 増加する交通需要に対応した交通容量の不足解消を目的として、量的な拡大を目標とした施設整備。

↓

○社会経済状況の変化

- 近年、人口の安定と少子高齢化の急速な進行、自動車交通量の減少など成熟型社会に移行。
- 道路整備に対する市民意識も変化。
- 各自治体は厳しい財政状況にあり、道路整備財源にも限度有り。

↓

○転換期にある道路整備

- 新たな都市構造を支える施設として、既存道路の有効活用、自動車交通だけでなく歩行者や公共交通などへの配慮、まちづくりとの一体的な道路空間の整備・活用などが要請。
- 地球環境問題や東日本大震災を契機とした都市防災なども、今後の道路整備のあり方に影響。

彦根市の道路整備の主要課題
①人口減少・高齢社会の到来を見据えた都市構造と都市交通体系の構築が必要
②都市の魅力の向上をめざし、交通面で旧城下町を歴史拠点として支援することが必要
③過度の自動車依存から脱却するなど環境負荷を軽減する工夫が必要
④都市防災に資する道路のあり方についての見直しが必要
⑤既存ストックの活用による効率的な道路ネットワークの構築が必要

2. めざすべき都市構造

- めざすべき都市構造を次のように整理する。

＜将来のまちづくりの方向（例示）＞

風格と魅力ある都市の創造

（「基本構想のコンセプト」より）

- 城下町魅力を伝えるまち
- 活力の担う“彦根ブランドの醸成”
- 住み続けたいくなるまち
- 地域の個性が活きるまち

＜めざすべき都市構造＝多極集約型都市構造＞

- 将来都市構造として、南北3軸、東西5軸の格子状の都市軸に、都市機能が集約する都市核・地域拠点が複数配置された「多極集約型都市構造」の形成をめざす。

- この「多極集約型都市構造」の形成により、自立した都市として活力を維持・増進とともに、市民や地域住民の生活利便性や文化の向上を図る。

3. 道路網形成の基本方針

①広域交通体系・都市間ネットワークの形成

- 名神高速道路へのアクセスの確保、都市間における通過交通を担う骨格線道路の充実を図り、近隣都市との連携強化をめざす。

②都市核、地域拠点の連携強化

- 都市内交通の円滑な処理、主要幹線道路の補完、都市内・地域間のネットワークの形成、さらに地域の生活動線としての役割などを担うために都市核、地域拠点を連携する道路の充実を図る。

③公共交通体系の確立支援

- 歩いて暮らせるまちづくりのため、鉄道・バスの公共交通の充実をめざし、鉄道駅等へのアクセス道路、バス路線となる道路の整備・改善を図る。

④地域特性を踏まえた道路環境づくり

- 各ゾーンの地域特性を踏まえた道路環境の改善を図る（下表参照）。

⑤段階的な道路ネットワークの形成

- 早期に、一定の道路交通機能が発揮できるような計画的な道路ネットワークの形成を図る。

A. 歴史的市街地ゾーン

○城下町の景観と歩く人を重視した道づくり

- 歴史的まちなみの保存修景の推進
- 不要な通過交通の進入抑制
- 公共交通の円滑な運行の推進
- 防災機能の向上を図るための狭隘道路の対策の推進

B. 新市街地ゾーン

○市街地形成の骨格となる道づくり

- 通過交通を受持つ道路ネットワークの強化
- 道路の分断区間の重点的な改善
- 新市街地部でのボトルネックとなる区間の改善
- 公共交通を主体としたエコ交通※の推進

C. 地域拠点

○拠点の魅力あふれる道づくり

- 各拠点の特性を踏まえた道路整備の推進
- 歩行者・自転車利用空間整備の推進
- 地域拠点と主要幹線道路等を連絡する道路整備の推進
- 公共交通利用のための環境整備の推進

D. 田園集落地ゾーン

○集落間を連絡する利便性高い道づくり

- 集落地内の生活環境に対応した道路整備の推進
- 主要幹線道路、幹線道路の機能強化

＜将来の道路ネットワークイメージ＞

※エコ交通：低炭素型の環境にやさしい交通

将来の道路ネットワークイメージ

A.歴史的市街地ゾーン

○城下町の景観と歩く人を重視した道づくり

- ・歴史的まちなみの保存修景の推進
- ・不要な通過交通の進入抑制
- ・公共交通の円滑な運行の推進
- ・防災機能の向上を図るための狭隘道路の対策の推進

B.新市街地ゾーン

○市街地形成の骨格となる道づくり

- ・通過交通を受持つ道路ネットワークの強化
- ・道路の分断区間の重点的な改善
- ・新市街地部でのボトルネックとなる区間の改善
- ・公共交通を主体としたエコ交通※の推進

※エコ交通：低炭素型の環境にやさしい交通

D.田園集落地ゾーン

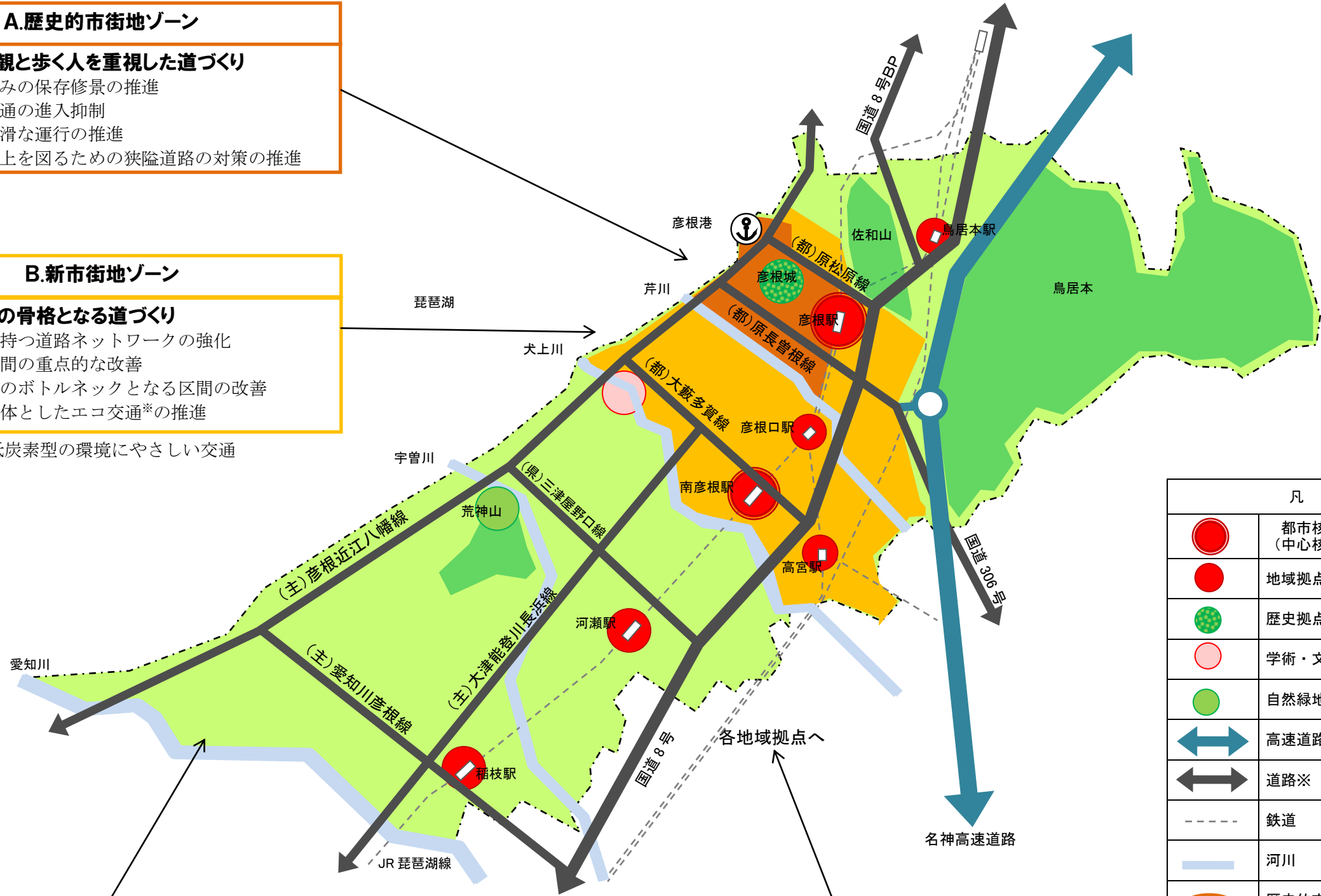
○集落間を連絡する利便性高い道づくり

- ・集落地内の生活環境に対応した道路整備の推進
- ・主要幹線道路、幹線道路の機能強化

C.地域拠点

○拠点の魅力あふれる道づくり

- ・各拠点の特性を踏まえた道路整備の推進
- ・歩行者・自転車利用空間整備の推進
- ・地域拠点と主要幹線道路等を連絡する道路整備の推進
- ・公共交通利用のための環境整備の推進



凡 例	
	都市核 (中心核、新都市核)
	地域拠点
	歴史拠点
	学術・文化・福祉拠点
	自然緑地・交流拠点
	高速道路
	道路※
	鉄道
	河川
	歴史的市街地ゾーン
	新市街地ゾーン
	田園集落地ゾーン
	自然緑地ゾーン

※3 軸、5 軸のみを表現している。